

社会科学古典資料センター長に就任して

As the Director of the Center for Historical Social Science Literature

池 間 誠
IKEMA Makoto

2001(平成13)年12月1日付で安藤英義教授の後を継いで附属図書館長に就任し、それに伴って社会科学古典資料センター長にも就任しました。因みに、館長としては第24代目、センター長としては第11代目になります。

周知のように、社会科学古典資料センターは、1978(昭和53)年に附属図書館から分離されて設立されました。その目的は、一橋大学が1875(明治8)年の創立以来蓄積し、附属図書館に所蔵されてきた社会科学古典資料を集中的に管理運営するとともに、社会科学古典資料を収集して、これを研究者の利用に供することによって、社会科学研究の向上に寄与することにあります。このような目的を達成するために具体的にどのような事業活動を行っているかについては、例えば、本『年報』巻末の「2001年センター報告・日誌」からご推察いただけるものと思います。

そこからもお分かりいただけるように、本センターの活動は、研究支援としての所蔵図書の充実という従来の図書館の役割を越えて、図書館機能を強化拡大し、研究を促進するまでになっています。例えば、本センター主催の西洋古典資料保存講習会は、センターがこれまでに蓄積してきた貴重図書の保存・修復の技術・ノウハウに裏打ちされており、また西洋社会科学古典資料講習会はセンターの資料調査とその利用者(研究者)の相互協力の成果であり、いずれも社会的に高い評価を受けています。

さらに、本『年報』は今回で第22号になりますが、各号には水準の高いエッセイ・論文等が掲載されており、通常の大学組織の活動報告年報とは全く異なり、研究年報となっております。実際、このような『年報』にこのような就任の弁を書くこと自体が場違いではないかと違和感におそわれております。他方、本センターの発行する *Study Series* は、既に48号に達しておりますが、これも『年報』と同様に、それ自体が社会科学古典研究にとっての貴重な資料となっておりつつあります。このような出版活動を通じて、本センターは、社会科学古典を研究する拠点としての実績を着実に確立してきております。

ともあれ、本センターは貴重書図書館であります。そして以上で述べたことから伺えますように、貴重な貴重書図書館であります。そのような本センターを一層充実させ、整備し、発展させるためには、附属図書館と密接に連携しながら、研究・出版機能を強化していく方向が考えられるのではないかと、そのためには組織機構の拡充や改組などが必要ではないかと思っております。学内だけでなく学外の皆様のご理解とご協力をお願いする次第であります。

(一橋大学附属図書館長・大学院経済学研究科教授)